

12月 1日～15日の国内外外国為替市場動向

	為替市況	主要経済指標など	主要発言など	為替レート		
				ドル円	ユーロ円	24H
05/12/01 (木)	東京は円が小幅安。株価が強含みに推移したものの谷垣スクランブルなどが嫌気され円売りが優勢に。欧米は結果としてドル一段高。ECBは利上げを実施したもののECB総裁の発言から失望感を呼ぶ。	・日経平均株価が5年ぶりの15000円台で終了 ・ECBが25BPの利上げを実施 ・10月の独失業者数 5.3万人 ・10月の米個人所得0.4%、同消費0.2%、11月のISM製造業指数58.1	・週刊文春に財務相の売春記事、財務相「事実無根で法的措置とる」 ・ECB総裁「連続で利上げを実施するとの決定ではない」 ・リープシャー-ECB政策委「ECBはさらなる金利変更を示していない」	119.70 119.67 120.73 120.65	141.23 140.78 141.64 141.62	寄付 安値 高値 終値
05/12/02 (金)	東京は再び円小幅安。夜半の米雇用統計を睨みつつも財務相発言が円売りに安心感を与えていた。欧米は大荒れの様相。注目の雇用統計は想定内で影響薄。ただ週末G7を巡り思惑が交錯した。	・一部独紙「中国は来年早々人民元を再び切り上げる」 ・11月の米失業率5.0%、非同農業者雇用数21.5万人 ・露中銀が通貨バスケットの比率を変更	・谷垣財務相「円相場はファンダメンタルズを反映した流れにある」 ・米財務長官「日本経済と円安はG7で話し合われる見通し」 ・米財務省「スノー長官は円相場について何も発言していない」	120.40 120.19 121.24 120.60	141.35 140.70 141.77 141.32	寄付 安値 高値 終値
05/12/05 (月)	週末のG7で円安容認との見方から東京はギャップを空けて寄り付き、そのままだ高値圏で推移。欧米は一転してユーロ高。材料よりもテクニカルなドル円でのユーロ買いを受け、対ドルでもユーロは連れ高。	・G7声明「中国にさらなる為替の柔軟性を求める」(4日) ・11月の米ISM非製造業景況指数 58.5	・谷垣財務相「G7で円安に関する議論はなかった」 ・奥田経団連会長「日本全体が若干バブル期のような状態」 ・独財務相「ECB利上げは断続的な利上げ局面の始まりではない」	121.06 120.72 121.40 120.80	141.85 141.69 142.70 142.39	寄付 安値 高値 終値
05/12/06 (火)	東京は結果円安。新味はなかったが谷垣発言も円売りに安心感をもたらしていた。欧米で最も動いた通貨は英ポンド。指標が予想外の悪化を示し売りがかさねた。またドルも荒れ模様。	・10月の英鉱工業生産指数 1.0% ・カナダが25BPの金利引き上げ ・第3四半期の米非農産物部門労働生産性改定値4.7%、10月の米製造業受注2.2%	・谷垣財務相「為替は基本的にファンダメンタルズを反映している」 ・カナダ中銀「インフレは予想より早く低下している」 ・ハリ-ECB理事会メンバー「連続利上げ実施の決定はしていない」	120.86 120.76 121.26 120.88	142.43 142.35 142.81 142.38	寄付 安値 高値 終値
05/12/07 (水)	東京は早朝にドルの売りに押されて円高に振れるもその後は一気の巻き返しへ。結局円安値引け。欧米はユーロが軟調裡。新規の材料はなかったがユーロ圏の落しが目立ち対ドルなどで冴えない。	・谷垣財務相と日銀総裁、小泉首相らが官邸で意見交換 ・アルカイダのサウジ容疑者がイスラム諸国への攻撃を呼び掛け ・NZが25BPの金利引き上げへ	・春日銀審議委員「円安は経済にとってプラスの影響がある」 ・谷垣財務相「ドル継続の要因などについて日銀と意見交換した」	120.67 120.67 121.18 121.03	142.37 141.55 142.55 141.91	寄付 安値 高値 終値
05/12/08 (木)	東京はやや円の買戻しが優勢。日銀総裁発言などもあり調整的な円の買いが目立つ展開だった。欧米は一転してユーロ高。ECB総裁は弱気のコメントを発したが影響は限定的なものに留まった。	・10月の機械受注4.8% ・BOEが金利据え置き決定 ・南アが金利据え置き決定	・日銀総裁「量的緩和政策の約束、誰の目から見ても終わりに近い」 ・ECB総裁「利上げは連続利上げの始まりではない」 ・米財務長官「米国はアジアでの一層柔軟な為替相場を望む」	121.05 119.99 121.06 120.33	141.82 141.31 142.58 142.19	寄付 安値 高値 終値
05/12/09 (金)	東京はドル小幅高。早期発表されたGDPが悪かったことで円売りがスタートするも、その後はドル買いへ。欧米はユーロが小じっかり。メルシュ発言などを受けたECB利上げ期待もあり、ユーロ買いが進む。	・第3四半期GDP改定値0.2%(速報値は0.4%) ・12月のシカゴ大消費者信頼感指数 88.7	・竹中総務相「日銀は政府と整合性のある成果目標を立てるべき」 ・メルシュECB理事「金利は非常に低水準」 ・ギリシャ中銀総裁「利上げは欧州経済に大きな影響ない」	120.47 120.32 120.76 120.68	142.29 141.77 142.68 142.52	寄付 安値 高値 終値
05/12/12 (月)	東京はドル高値圏で揉み合い。人民元に対する好悪材料が入れ乱れた格好で手を出しにくい。欧米はFOMCを前にした調整的な動きからドルが冴えない。対円では120円を割り込み安値引け。	・みずほ証券による株式誤発注事件発生、最終損失400億円にも ・11月の米月次財政赤字831億ドルで過去最悪 ・OPECが総会で生産量据え置き、実質減産で合意	・人民銀総裁「元切り上げの噂はナンセンス」、しかしその後も「中国がドル資産の縮小を検討」「ドルのエクスポージャー積み上げを警告」--など中国絡みのニュースなどが相次ぐ	120.85 119.53 121.07 119.78	142.51 142.46 143.62 143.17	寄付 安値 高値 終値
05/12/13 (火)	東京はこの日もレンジ内での揉み合い。NYタイムに米FOMCを控えているとあって手控えムード極めて強い。欧米はドル小安い。FRBは予想通り利上げを実施したものの、声明の文言変更が嫌気された。	・12月の独ZEW期待指数61.6 ・11月の米小売売上高0.3%、同企業在庫0.3% ・FRBが25BPの利上げ決定、FOMC声明からは「緩和的」との表現削除される	・人民銀金融政策委員「外準の大幅な多様化は行わない」 ・豪中銀総裁「政策金利、依然として上昇のリスク」	119.90 119.64 120.47 119.95	143.32 143.13 143.59 143.28	寄付 安値 高値 終値
05/12/14 (水)	東京は大荒れの様相。日銀短観はほぼ予想通りの内容ながら材料出尽くしの調整円買いが殺到した。欧米に入っても円買い戻しの流れ変わらず。ドル/円だけでなくポンド/円が3円も下落するなど円全面高。	・日銀短観大企業製造業DIは21 ・10月の米貿易赤字 689億ドルで過去最高、11月の米輸入物価は1.7%、同輸出物価 0.9%	・米財務長官「米国のインフレは抑制されている」	120.09 116.71 120.09 117.38	143.47 140.17 143.50 140.85	寄付 安値 高値 終値
05/12/15 (木)	東京は前日の流れを継いだ円買い止まず。財務相が明確な懸念を発しなかったことも円買い要因に。欧米は小幅に円高。ただ、これまでのような動きは一巡し、相場はやや落ち着きを取り戻しつつある。	・スイスが2%BPの利上げに動意 ・12月のNY連銀インデックス28.74、同FF連銀インデックス12.6、11月の鉱工業生産0.7%、同設備稼働率80.2%、同CPIは 0.6%、10月の対米証券投資1068億ドル	・谷垣財務相「為替の動き、大きな意味ではファンダメンタルズを反映」 ・独財務次官「現在のユーロ/ドルの水準、独経済にとって好ましい」 ・ECB総裁「連続的な利上げ実施を事前に決めてはいない」	117.57 115.82 117.69 116.23	140.75 138.95 140.96 139.23	寄付 安値 高値 終値

* ご質問などはEメールにてお願い致します。アドレス info@fx-newsletter.com まで